



市民参加型合意形成 プラットフォーム (加古川市版Decidim)

加古川市企画部情報政策課

スマートシティの推進に関する協定の締結



■ 2020年10月15日 Code for Japan と協定を締結

1. 住民対話・参画を促す「DIY都市」の考えに基づいたスマートシティ推進のための活動に関すること
2. 人材の育成に関すること
3. データを活用した地域の課題解決に関すること



■ Decidimの概要

- バルセロナやヘルシンキなどで使われている、参加型民主主義プロジェクトのためのツール
- オンラインで多様な市民の意見を集め、議論を集約し、政策に結びつけていくための機能を提供
- バルセロナのような都市レベル、地域政府レベル、Fundactionのような非営利団体、Decidimコミュニティといったコミュニティ活動でも利用
- 30を超える自治体で利用

■ Decidimの特徴

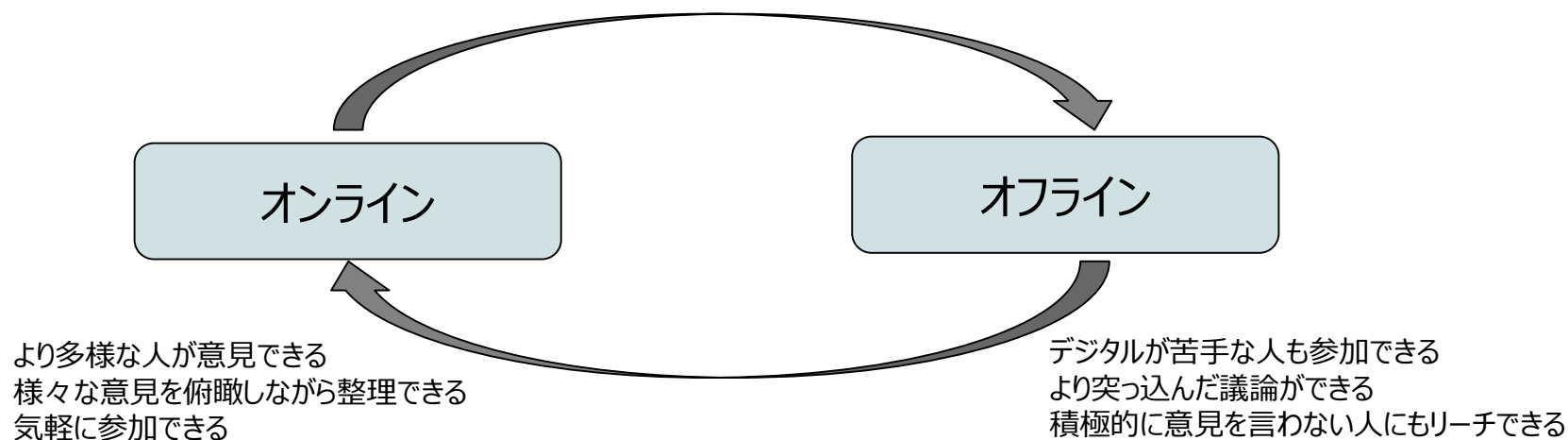
- パブリックコメントのようなものとは違い、意見を言った人に対するフィードバックを行える。また、計画策定の間のプロセスが設計されており、徐々に議論を収束させていくことができる
- デジタルな参加と、物理的な会議のプロセスを融合させ、デジタル・デバイドの問題を解消
- 議論やデータが可視化されるため、納得解が得やすい

■ Decidimの実績

- バルセロナ市の自治体行動計画（PAM）の提案書を提出するプロセスには、12万人（バルセロナの人口の**7.5%**）が参加
- 提出された**10,860件の提案のうち、1,467件**が公式のPAMに盛り込まれた
- プラットフォームの立ち上げ以来、作成された13,957件のうち、**9,828件の提案が受理**

■ Decidimの議論構成

- オンラインとオフラインを融合させることにより議論を活性化





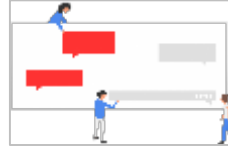
戦略立案



参加型予算編成



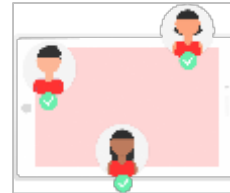
住民参加型計画立案



署名活動や市民相談受付



討論



住民ネットワークと
コミュニケーション

加古川市 市民参加型合意形成プラットフォーム

検索
多田
編集

ホーム
参加型プロセス
参加スペース
ヘルプ

かこがわの未来へ想いをつなごう

参加

スマートシティ構想に関する意見を募集します！

加古川市版Decidimについて

加古川市では、一般社団法人コード・フォー・ジャパンと協働で、市民の皆さまとともに「加古川市スマートシティ構想」を策定するため、市民の皆さま等にご意見をいただき、議論し、政策に結び付けていくための場（市民参加型合意形成プラットフォーム：加古川市版Decidim）を、オンライン上で立ち上げました。

よりよいまちを皆さまと実現するためのご意見・アイデアをお待ちしています。

新規登録は [こちら](#) から、登録済みの方のログインは [こちら](#) からお願いします。



市民
市民のQOLや利便性を向上するサービス

行政
デジタル行政の推進

まち
ICTを活用した都市機能の強化や都市課題の解決

【市民】市民のQOLや利便性を向上するサービス

- ① いつでもどこでもできるストレスフリーな行政手続の実現
- ② 誰にでもやさしい窓口環境の実現
- ③ 欲しい情報がすぐ手に入る効果的な情報発信
- ④ 安心して子育てができるまちづくり
- ⑤ 高齢者にやさしいまちづくり
- ⑥ GIGAスクール推進（デジタル教育）
- ⑦ 行政情報の見える化

【まち】ICTを活用した都市機能の強化や都市課題の解決

- ① 快適に移動できるまち
- ② 安全・安心のまちづくり
- ③ 災害に強いまちづくり
- ④ にぎわいのあるまちづくり
- ⑤ インフラの整備及びメンテナンス

【行政】デジタル行政の推進

- ① 情報のデータ化によるスムーズな窓口対応
- ② 最新技術による徹底した業務効率化
- ③ どんな時も業務継続を可能とする体制づくり
- ④ 多様なデータの活用による新たな行政サービスの創出
- ⑤ スマートシティ人材の育成

ハイライトされた参加型プロセス



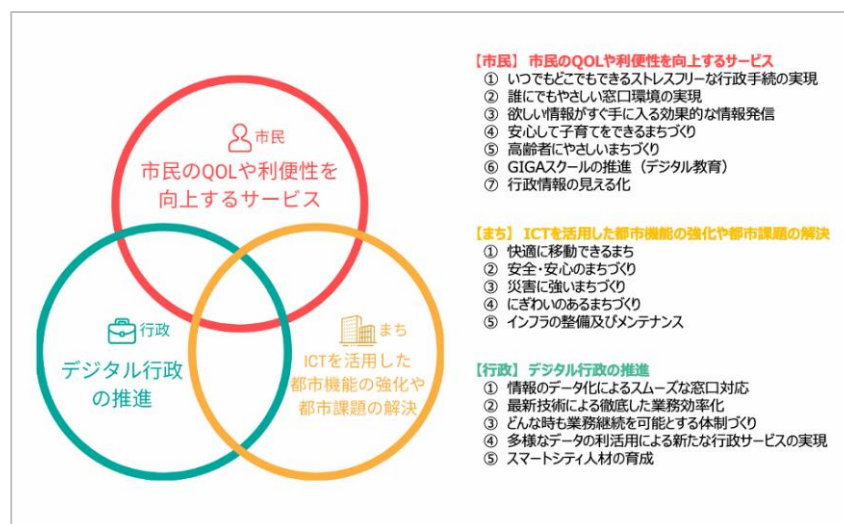


Kakogawa City
 加古川市
 いまよりも住み続けたい 未来を築く都市 加古川

5

■ スマートシティ構想策定に利用（試行運用）

- 3ジャンル、17項目について意見聴取
- 3月のスマートシティ構想公表に向けて、3つのフェーズを活用
 - ・ アイデア収集フェーズ（スマートシティ構想の各目標における概要に対して、意見・アイデアを収集）
 - ・ 意見収集フェーズ（アイデア収集フェーズにおいて出てきた意見を参考に作成したスマートシティ構想案について意見を収集）
 - ・ パブリックコメント（1月～2月）



【まち】⑤インフラの整備及びメンテナンス

■ あるべき姿

- 人材不足を補うため、デジタル技術を活用したICT工事を推進する
- 車だけでなく自転車や歩行者にも優しいインフラ整備
- インフラのメンテナンスが必要な状況を迅速に把握しメンテナンスを行う
- 市民ニーズに応じた公園施設の設置
- 住みたくなる街に選ばれる都市デザインを行ったまちづくり

■ 現状・課題

- 加古川東市民病院跡地の複合施設の整備や国道2号線の4車線対面通行化など幹線道路の整備を予定
- 公共下水道区域内の未普及エリアの早期解消に向けた官民連携手法（PPP）の活用
- 通学・通勤時間帯は幹線道路の渋滞が頻発
- 自転車道や歩行者道が整備されていない場所があり、また狭い道路が多く危ない
- 子どもを安心して遊ばせることができる場所や環境がない

■ 短期（～3年）でのアイデア例

- インフラデータのデジタル化
- 3D都市マップの整備とユースケースの検討
- ドライブレコーダー等の解析による路面状況の把握
- 市公衆無線Wi-Fiの整備

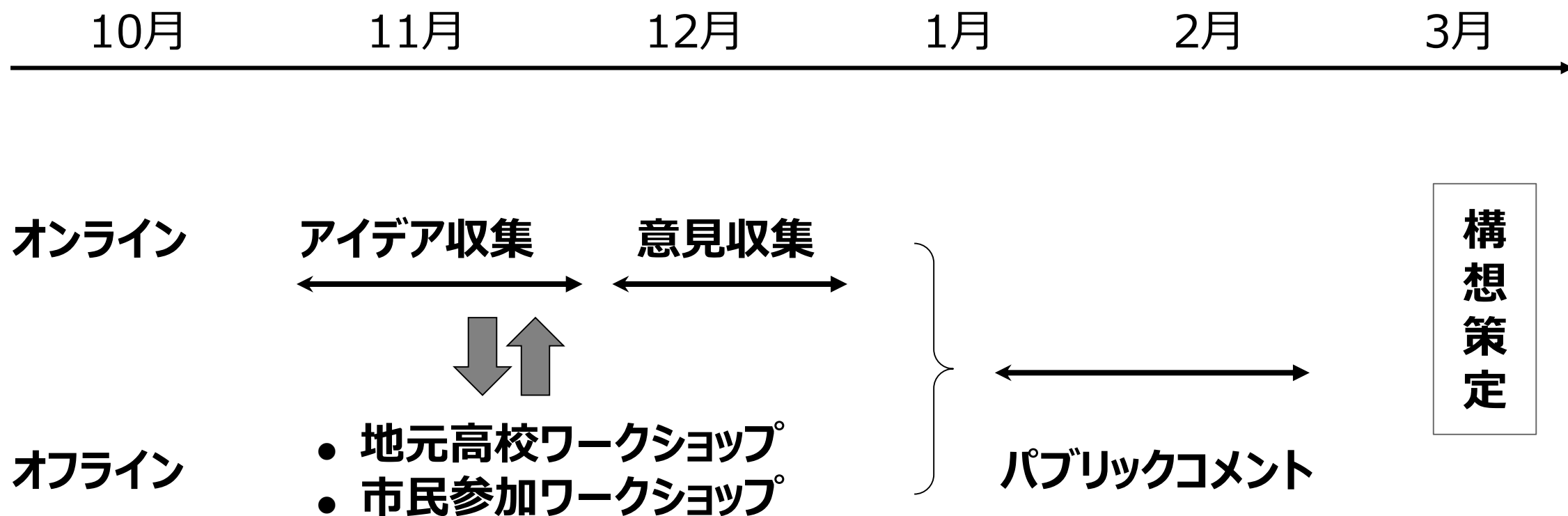
■ 中長期（～6年）でのアイデア例

- ICT工事の推進による工事の効率化
- インフラデータのオープン化
- 人流データ分析による公園整備
- 3D都市マップを活用した都市計画

加古川Decidimイベント一覧（2020年度）



- スマートシティ構想策定に際し、オンライン・オフラインを組み合わせる議論



【市民】⑤高齢者にやさしいまちづくり

■ あるべき姿

- 医療や介護が必要となっても高齢者が住み慣れた地域で、人生の最期まで安心して暮らし続けられる
- 高齢者が社会につながっていることができる
- 高齢者が通える場所があり、やりがいをもっていきいきと暮らせるまち
- 高齢者がICT技術を活用できる
- 介護者が遠方で離れていても、介護保険関係の手続きや高齢者の見守りができる

■ 現状・課題

- 高齢者の増加に伴い、一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯が増加している
- いきいき百歳体操や高齢者サロンなど介護予防に効果的な通いの場は増加傾向にある
- 地域において関係主体の連携をすすめて、支えあいの仕組みづくりを進めている
- 介護者をはじめ、担い手が不足している
- ICTツールを使いこなせない高齢者が多い

■ 短期（～3年）でのアイデア例

- 高齢者が使いやすいデバイスやアプリの研究・普及（オンラインサロンなど）
- 一人暮らし高齢者等向けにコミュニケーション用ロボットの導入

■ 中長期（～6年）でのアイデア例

- 介護者へのフォローアプリ導入（検温や薬の管理補助、介護用スマートウォッチ導入）
- 介護ロボットの導入
- 介護のオンライン相談・手続きの実施



市民

1－①いつでもどこでもできるストレスフリーな行政手続の実現

■基本方針

さらなる市民サービスと業務の効率化に向け、マイナンバーカードの公的個人認証サービスによる個人認証及び電子署名の活用をはじめとする各種申請・届出のオンライン化や、行政サービス（使用料、手数料等）や税のキャッシュレス決済の導入を進め、時間や場所を選ばない行政手続の実現を図ります。

■現状・課題

コンビニエンスストアでのマイナンバーカードを使用した住民票や所得証明書等の証明書の交付、市税等の収納など、市役所の開庁時間外でも手続ができる環境の構築を進めてきました。

また、加古川市民センターや東加古川市民総合サービスプラザでは、本庁の業務終了後や休日も業務を行い、市民の利便性向上に貢献しています。

しかしながら、転入出の届けをはじめとする各種申請・届出や公共施設の申請手続き等の多くは直接窓口に行く必要があり、事務手数料や施設利用料等公共料金も多くが現金払いとなっています。

登録者数

196

コメント総数

261

最大コメント数

39

※いわゆる「荒らしコメント」は、ほぼなかった

10代参加者

約4割

市内：市外参加者

40 : 60

スマホアクセス

60%

県立加古川東高校におけるDecidim活用（2020年11月18日）



STEAM教育の一貫で、Decidim上にスマートシティに関する政策提案を行う



令和2年12月23日（水曜日）

高校生がオリジナルの施策を提言

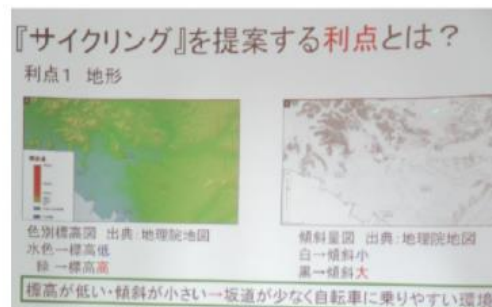
加古川東高校の生徒の皆さんが独自で研究された、市の課題解決のための施策を、市役所で発表していただきました。

テーマは3つ。1.シニア世代による子育て支援、2.サイクリングを中心とした市民の健康づくり、3.世代、職業を問わず誰もが携わる農業の形。

今年の8月に発表いただいた提案を元にさらに研究を重ねられた内容で、どれも加古川市で展開できそうなものばかり。

加古川東高生の皆さん、ありがとうございました。

※加古川市ホームページより



市民参加によるオンラインワークショップ（2020年11月21日）



■ 7班に分かれて「ありたい加古川の姿」を考えるワークショップを開催



満足度

100%

感想自由記述

- いろいろな立場の人で話し合いができて良かった!
- こんな加古川になったらいいなあと思ったから。
- 市民から課題意識を聞くことができてよかった。

継続参加意欲

90%

Decidim機能で実施した方がよいもの

- 提案機能
- 市民同士の議論の場

岡田市長（写真右）

- コロナ禍でオンラインを活用するタイミング
- SNSもやっているが、市政に関心を持っている人とし
かつながれない
- 最初はパブコメの拡大版として始め、まずはいろんな
声を拾っていききたい

